

第 1 回みやぎ観光振興会議石巻圏域会議 委員発言要旨

バリュー・ザ・ホテル東松島矢本 阿部聡儀支配人

- 圏域での消費回復には来訪者の滞在時間をいかに伸ばすかが大事であり、そこから多くの発展が見込める。
- 飲食だけでなく、東松島市の SDGs 未来都市やスポーツ健康都市と紐付けした体験などとホテルがタイアップして発信していくことも求められてくる。

県タクシー協会 池田憲彦会長

- 大変な厳しい状況に陥っている。県内には 180 社、3,800 車、5,500 人が従事する中、下手をすれば何社かつぶれてしまう。
- 回復へ 2 市 1 町の連携は必然。隣に日本三景の松島がある中、石巻圏域は食で勝負すべき。

みやぎおかみ会 遠藤和子幹事

- みやぎおかみ会では 5 月から収束後の利用促進に向けた 3 割増宿泊券「みやぎお宿エール券」を販売し、多いところで 2 千枚を超える購入もあった。
- 牡鹿地区では、ミンク鯨などの食の PR や、ワカメ収穫体験、島巡りなどを行っており、週末の商業施設への来客が増えているが、宿泊者はまだ伸びてはいない。

石巻料理店組合 大森信治郎組合長

- 非常に厳しく、関係者の間では容易に回復しないという見方が多い。今は補償で経済的に持ちこたえているが、1 年後、本当に厳しくなる。
- 都市部の「3 密」に対し、地方を「快適な疎（そ）＝適疎」とのフレーズを利用し、観光戦略とできるのではないか。
- 新しいサービスの様式が必要となる。アクリル板や京都の簾戸（すだ）の活用など、工夫していかなければならない。

東松島市観光物産協会 菊田良光会長

- マイクロツーリズム（近郊観光）が求められ、インバウンド（訪日外国人旅行）は当分望めない。
- 国外旅行が減る分、国内かつ身近に目が向けられる。
- 3 密を避けたオルレの客はそれほど減っていない。宮戸八景や奥松島オルレなど密を避けた観光を中心に進めてはどうか。

(株)街づくりまんぼう 木村仁代表取締役専務執行役員

- 石ノ森萬画館は 6 月 1 日の再開後、平日は以前の 2 割、休日も 4 割にとどまる。もともと、半数は県外の方のため、回復は都道府県をまたぐ移動の解除となる 6 月 19 日以降になる。

【未定稿】

- 近隣や国内の観光への注力は全国で同じ流れでありスピードが大切。
- 「駅から観タクン」「定期観光バス」「デジタルによる情報発信」など既存の情報の整理・発信のほか、県の「みやぎ応援ポケモンのラプラス」の活用できないか。
- 東日本大震災から10年、萬画館は開館20周年となる来年がやま。特徴が必要なため、仙石東北ラインのラッピングなどお願いできないか。

(株)ミヤコーバス石巻営業所 後藤正基所長

- 隣の松島は日本三景だが、石巻圏域はインパクトがないと良く言われる。
- 何より人を呼び込むことが大事であり、観光スポットを一つ一つ洗い出すと共に、宿泊や日帰りなどに合わせたルート設定は必要だろう。

鮎川まちづくり協会 齋藤富嗣代表理事

- 新型コロナウイルスの影響でゴールデンウィークは残念だった。延期となった「おしかホエールランド」の開館は夏頃になる。
- 6月6-7日の週末には半島の突端である鮎川に2千人が訪れた。キャンプ場もにぎわいを見せており、観光の形が大型ではなく、個人や家族などをターゲットに変化している。
- 3密回避に対応した新しいサービスが求められる。
- 広域的に食材などをテーマに同時イベント開催などで観光客を呼んではどうか。

東日本旅客鉄道(株)石巻駅 佐藤正幸駅長

- 新型コロナウイルスの影響でJR利用者は87%減で、ゴールデンウィーク中の新幹線利用者は例年の4-5%だった。
- コロナ渦で鉄道利用は地域のイベントや観光があつてこそということを痛感した。
- 我々にできるのは周辺地域の情報を集めて利用しながらPRすること。QRコードなどを利用し、観光情報を提供している。
- 駅から観光地へつなぐ二次交通には地域の知恵が重要。皆さんと一体でPRしたい。

石巻専修大学 庄子真岐教授

- 国内観光の競争は非常に激しくなる。
- その中で石巻圏域では震災後に生まれた多くのつながりを生かすべき。
- JTBの調査でも終息後の旅行先は「知人・友人訪問」が最多。
- 安全安心を活かし、その取組などを情報発信する。
- オンライン体験の充実も観光の入り口になる。
- 旅行に行っても良いという雰囲気づくりや、小学校などに観光休暇を導入してはどうか。

女川町商工会 高橋正典会長

- 女川町は震災後、人工が6,200人にまで減った。産業衰退からの回復を目指す中でのコロナ問題はインパクトがある。

【未定稿】

- 女川町は交流人口がないと成り立たない町であり、町の将来に関わる。町単独では無理があり、圏域一体で機運を醸成したい。

東松島市商工会 橋本孝一会長

- 東松島市では総生産の8割が建設業。松島基地などもあるが、直接的な経済効果としては決して大きくはない。
- 他にはない特徴として「スポーツ健康都市宣言」や防災・観光教育施設などがある。オルレの活用や行政などと協力しながら進みたい。

リポーンアート・フェスティバル実行委員会 松村豪太事務局長

- 仕方なくではなく、チャンスとしてマイクロツーリズムを進めたい。
- インバウンドなどにおいて、観光から体験になってきている。震災コンテンツも前向きに生かすべき。観光プロパーだけでなく幅広い連携が必要。
- 都市部の人々が休暇を取りながら環境の良い場所でテレワークをする「ワーケーション」の誘致の可能性もある。

貴凜庁（株） 三井紀代子社長

- 運営する「キボッチャ」もキャンセルが相次ぎ、大変な状況に陥った。
- 今後の受け入れのためにも対策の実行・告知・表現が大事になる。安全安心を徹底していることを可視化する取り組みが求められる。
- 観光が、オルレなどの密を避けた屋外になりつつある。
- 野蒜駅から宮戸までの二次交通がない。
- 冬季対策として、観光スポットに宝を配置した「宝探し」や「牡蠣」の提供をしている。地域の観光スポットなどをつなげ、ターゲットごとにコースを設け、その中で交通や宿泊施設を利用してもらおうと良い。

女川町観光協会 持田耕明副会長

- 私は東京出身で国内外を船で転々としてきた。その経験から客目線として、何をするかよりも、今こそ、趣味や仕事で輝いている人の姿を見せることが大事だろう。住民が下を向いている場所には誰も行きたくない。
- 海岸線は素晴らしいが、三陸復興国立公園の看板が少ない。
- サイクルツーリズムなどの自転車利用者のため、地域の一人一人が車の運転に気をつけている。
- 東京で働かなくても、適疎な地域でのサテライトオフィスなどはどうか。

石巻商工会議所 青木八州会頭

- 豊富な食のPRは重要。魚介類は美味しい。
- 多くの施設や素材を結びつける方策が必要だ。
- ハワイのオプションツアーのように沢山、用意してはどうか。例えば、オルレや金華山観光、

【未定稿】

雄勝の星空観察や県施設を活用した射撃体験などはどうか。
○はじめは行政の助けを得つつ、採算に乗せてもいい。

石巻観光協会 後藤宗徳会長

- 県の観光は、松島、仙台、鳴子、蔵王が中心で沿岸部は少ない。
- 観光情報等がほしい人に届くようにしなければならない。
- どの業界も例外なく先行きが見えないが、「一社もつぶさない」という強い気持ちで臨む。
- 観光の基本は「近き者よろこび、遠き者来たる」。
- 小さな観光が豊富にあることが大事。歴史では、野蒜築港跡、サンファンバウティスタ、支倉常長。新しいコンテンツでは、漫画。北上川や運河の船での周遊。オンラインによる田代島の猫やダイバーによる鯨観賞、金華山のロッククライミング体験など。全員がプレーヤーとして一つに走ろう。
- 適疎という新しい概念を宮城発で、安全安心を提供していく。